

夕陽が丘一丁目自治会の最近の話題 <その1>

夕陽が丘一丁目は東京の都心から1時間20分ほどの住宅団地です。
この団地は今から40年ほど前に、大手の不動産会社が開発したところで、約800戸の戸建て住宅と5階建てのマンション5棟(200戸)が建っています。近年住民の高齢化が進んでいます。

自治会の構成

- 自治会長 : 大山治雄さん
環境委員 : 小山境子さん
安全委員 : 中山安太郎さん(安全・安心のまちづくりの会会長)
民生委員 : 山田民子さん



<自治会長>



<環境委員>



<安全委員>



<民生委員>

自治会長：わが街夕陽が丘一丁目も宅地開発から既に40年が経ち、当時30代の若い入居者も今では70代になり高齢化が目立ってきました。先日自治会の構成員の平均年齢を調べたらなんと64.3歳ということが分かりました。30年前は若い夫婦の所帯が主で、子供たちの遊び声があちこちで聞こえていました。その子供たちは都心のマンション住まいでこちらに戻ってくるつもりもないようです。今では公園はあっても子供たちはおらず、お年寄りが日向ぼっこをするぐらいです。昔は子供達で一杯だった幼稚園や小学校は今やガラガラです。世に言う限界団地と言われる状況になりつつあります。

民生委員：先日、一丁目11番地のお一人で暮らしていた78歳の山田さんが風呂場で倒れてなくなりました。孤立死でした。発見は新聞屋さんがポストに新聞が溜まりだしたのでおかしいと思い警察に通報し、発見されました。私達も気を付けてはいるのですが、民生委員の数も不足しており目が行き届きませんでした。私たちの街の人たちの日常のコミュニケーションが希薄だということもあるのではないのでしょうか。

自治会長：一丁目の所帯全ての安否を毎日チェックするのは、我々自治会役員だけでは無理だ。

安全委員：孤立死と共に、お年寄りが「振り込め詐欺」にかかった事件がこの町内会でも発生しました。

自治会長：このままいけば、当町内の住民の年代構成はどうなるのだろう。すでに夫婦共亡くなった家はそのまま空家になっているし、高齢の単身者の住まいも多くなってきた。若い世帯が戻ってくれば良いのだが。

民生委員：若い世帯といっても既に40代の方が多く、現在の都心のマンションに住み着いており、子供たちの学校や通勤のことを考えれば、戻る可能性が少ないのではないかしら。通勤に1時間圏内のところでマンションに住んでいる世帯が多いですよ。

安全委員：そうすると、その人たちが退職してから古楽のまちへ戻ってくるというわけですか。それまで空家になるということかな。それでは夕陽が丘一丁目はいつまでも退職者の人たちの高齢化集落になってしまう。

環境委員：今年から定年が延長され65歳になるということだし、その歳になって引越して戻る人って少ないのではないかしら。

自治会長：若い人たちやお年寄りの方が「住んでみたい」と思うような魅力ある街にすれば、空家も減って若い人たちも戻ってきて活気付くのではないだろうか。

環境委員：そのためにはまず犯罪が少ないまち、皆が互いに挨拶して、助け合うような住んでいて気持ちの良いまち、緑あふれるすがすがしいまちを志向して、できるところからやってみたらどうでしょう。

民生委員：日本で「住みよいまち、住んでみたいまち」ってどこかしら。

田園調布や自由が丘、成城、吉祥寺、国立あたりかしら。



<田園調布>



<自由が丘>



<成城>



<吉祥寺>



<国立>

自治会長：確かにそれらの街は高級住宅地として有名で住みよいと思うが、土地が高くて親譲りでなければ若い人にはとても手が出ないだろう。地価の上昇が止まっているとは言え、そんな場所の戸建てはよっぽどの金持ちでなければ無理だろう。

環境委員：今ある私たちの街を魅力ある街にするには、できるところからやるのが大切ではないかしら。まず、私たち自治会の委員が積極的に独り身の高齢者への声かけ運動や、街の清掃を呼びかけましょう。

安全委員：夕陽が丘のほかの自治会では、「安全安心の街」を目指して防犯パトロールをやっているところもある。

幸い当自治会には退職者が多く参加できるメンバーはたくさんいる。今までサラリーマンとして朝早くから夜遅くまで企業で働いてきた人に、これからは地域の活動に参加してもらうことを促せばきっと集まると思う。

自治会長：今日行政は財政難に陥っており、ますます退職した高齢者の力を期待している。そのため、多くの地方行政機関が「協働のまちづくり条例」を作り、行政と市民やNPOとのコラボレーションを進めている。

環境委員：そのためには、やるのがたくさんありそうね。できるだけ愛着が持てる活動にして、若い人たちに戻ってきて欲しいな。交通の便をもっと良くするためにバス会社にコミュニティバスの運行を依頼したけれどなかなか実現しそうもないわ。いっそ自治会で運行を計画したらどうかしら。道路運送法が改正されて、NPOによるボランティア有償運送が制度化されたそうよ。夕陽が丘は坂道が多いし、高齢者も多いので夕陽が丘一丁目から六丁目までを運行するコミュニティバスならいけそうね。車椅子も乗れるリフト付きコミュニティバスもあるそうよ。運営協議会を設立して会員制で運行しているところも増えているそうよ。「夕陽が丘バスクラブ」としたら良いのではないかしら。

自治会長：それはいい。夕陽が丘は高齢者がこれからも増えそうだし、自家用車から公共交通機関にシフトすることは、低炭素社会に向かう環境に優しい活動と言えるだろう。以前個人タクシーをやっていた^{くるま}車大吉さんに頼んだらやってくれるかも。自治会も地域の快適生活を推進するNPO法人として活動すればよいと思う。



<コミュニティバス>



<車^{くるま} 大吉さん>



<車椅子用リフト付きバス>

自治会の委員の人たちの話し合いで、夕陽が丘の街での自治会の活動にドライブがかかることになりました。

活動テーマは、

- ①みんなで挨拶、笑顔あふれる街づくり（コミュニケーションの活発化）
- ②防犯防災・安全安心の街づくり（災害・犯罪に強い街づくり）
- ②お年寄りに優しい元気な街づくり（見回り隊、声かけ運動）
- ③住んでみたくなる清潔な街づくり（廃棄物処理、町内清掃、草取り）
- ④緑豊かで季節の移ろいと鳥のさえずりが聞こえる街づくり
（緑化、花いっぱい運動、バードサンクチュアリー）
- ⑤花を愛でるやさしい心を育てる街づくり
- ⑥住民が行政に積極的に参画する活動の推進

こんなことをテーマとして、住民全員参加で進めていくことになりました。

